

平成11年度
農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書

清武町・^{ふなひき}船引地区遺跡
高城町・^{ほそい}細井地区遺跡
えびの市・^{ひがしかわきた}東川北地区遺跡
都城市・^{よこいち}横市地区遺跡
都城市・^{いままち}今町地区遺跡

平成12年3月

宮崎県教育委員会

平成11年度
農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書

清武町・^{ふなひき}船引地区遺跡
高城町・^{ほそい}細井地区遺跡
えびの市・^{ひがしかわきた}東川北地区遺跡
都城市・^{よこいち}横市地区遺跡
都城市・^{いままち}今町地区遺跡

平成12年3月

宮崎県教育委員会

序

宮崎県教育委員会では、埋蔵文化財の保護を図るため開発計画のある地域の発掘調査および分布調査を行っております。

平成11年度は県内各地で各種の農業基盤整備事業が実施され、事業に伴う発掘調査等を行っております。

本報告書は、平成11年度に県内で行った確認、試掘調査のうち5地区の概要を報告するものであります。

この調査報告書が、埋蔵文化財の保護と開発事業との調整の資料として活用され、また、埋蔵文化財に対する認識と理解に役立つことを期待いたします。なお、調査に際しましてご協力いただいた関係機関に対し、心から感謝いたします。

平成12年3月

宮崎県教育委員会

教育長 笹山竹義

例 言

- 1 本書は、宮崎県教育委員会が平成11年度に文化庁国庫補助を受けて実施した、農業基盤整備事業に伴う発掘調査の概要報告である。
- 2 発掘調査は、宮崎県内の農業基盤整備事業に伴う周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の確認調査及び未周知箇所の試掘調査として実施した。
- 3 遺跡の名称は、事業毎に「〇〇地区」と総称し、その中で周知の遺跡については個別名称を付している。今回の分布調査・試掘調査により新たに確認されたものについては今後字名等を参考に命名される予定である。
- 4 発掘調査は、県文化課主査長津宗重、同主任主事重山郁子、同主任主事東憲章が担当した。また、調査にあたっては、関係市町村教育委員会及び同農政部局、当該地区の県農林振興局、市庁、各地区土地改良区等の協力を得た。
- 5 本書の執筆は、各担当者が行い文責は目次に示した。編集は東が行った。
- 6 出土遺物は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

目 次

第1章 はじめに	(重山)	1
第2章 発掘調査の結果		
第1節 清武町・船引地区遺跡	(重山)	1
第2節 高城町・細井地区遺跡	(東)	5
第3節 えびの市・東川北地区遺跡	(東)	8
第4節 都城市・横市地区遺跡	(東)	11
第5節 都城市・今町地区遺跡	(東)	15
表 平成11年度試掘調査・確認調査一覧		18

第1章 はじめに

宮崎県では、基幹産業としての農林業の各種整備が年間をとおし実施されている。ここ数年は、従来の農地防災事業、農地保全事業や各種農道整備事業に加え、農村環境の各種整備や中山間地域の総合整備事業、担い手育成事業等、これまでより幅広い各種整備事業が展開されてきている。

県文化課では、これらの開発事業と埋蔵文化財の保護との調整をはかるため、平成11年度事業予定区を中心に分布調査を実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地およびその周辺地区、遺跡の立地する可能性が高い箇所については、確認調査・試掘調査を実施した。

本報告ではこのうちの確認調査・試掘調査の5地区について報告するものである。

第2章 発掘調査の結果

第1節 船引地区

1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

船引地区遺跡は宮崎県宮崎郡清武町大字船引に所在する。清武町は県央部にあり、宮崎市の南西に位置している。船引地区遺跡はその清武町内でも北部の標高100m以下のシラス台地上に所在している。台地の南側には清武川が流れており、比高差40m～50mを測る。この台地は宮崎市と清武町にまたがっており、清武町側には白ケ野第1・第2遺跡、滑川第1・第2遺跡ほか13遺跡が所在する。隣接する宮崎市側には上ノ原第1遺跡など3遺跡が分布している。

船引地区には場整備事業は、西側の白ケ野地区から着工されており、宮崎県教育委員会では平成5年度に白ケ野第1遺跡及び滑川第1・第2遺跡周辺、平成7年度に白ケ野第1・第4遺跡周辺、平成8年度に滑川第1・第2遺跡周辺、平成9年度に山田遺跡周辺の確認調査を実施している。その結果に基づき清武町教育委員会が平成7年度に白ケ野第1遺跡、平成8年度に白ケ野第4遺跡、平成9年度に白ケ野第1遺跡、平成10年度に滑川第1・第2遺跡、平成11年度に山田第1遺跡、第2遺跡の発掘調査を実施している。

今年度の確認調査は、山田第1・第2遺跡周辺と坂元第1遺跡・第2遺跡周辺で実施した。実施地点は中央部が低く縁辺部が高くなる地形で、現況では小さな起伏は見られない。しかし、確認調査の結果、縄文時代遺物包含層では小さな起伏が連続しており、遺跡が比較的広い範囲に広がっている。南側の清武川に向けた崖付近と北側の丘陵の尾根から延びる斜面に縄文時代を中心とする遺跡が営まれていたことが確認された。

確認調査は、平成11年8月9日から8月27日までの7日間行った。調査には重機を使い、1m×5mのトレンチを57個設定した。

2. 試掘調査の概要

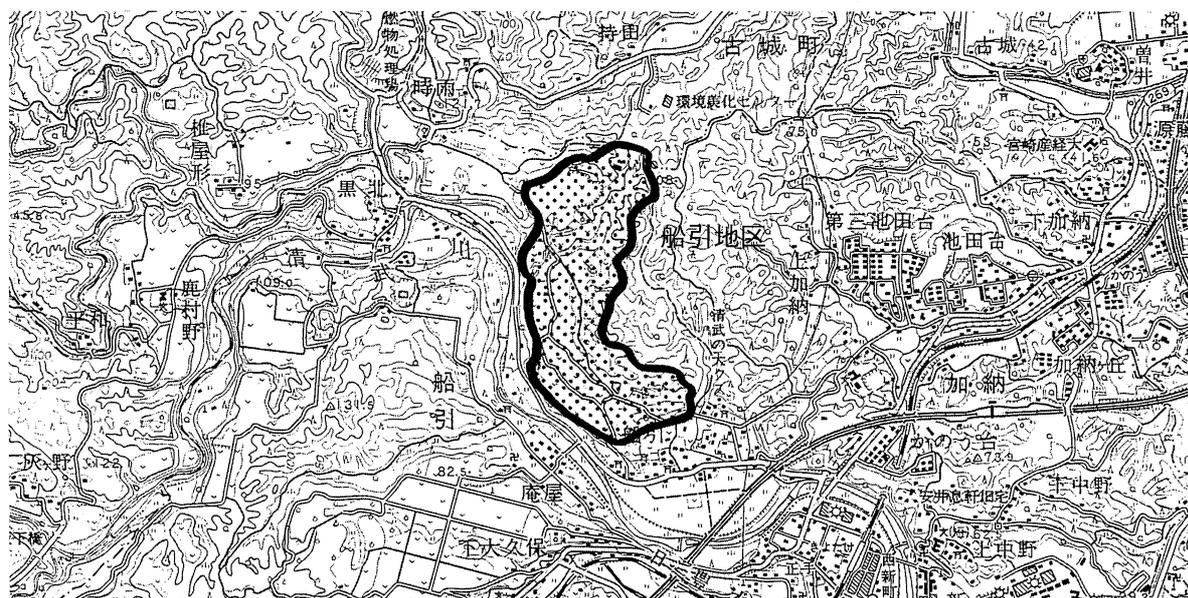
各トレンチの基本土層は削平の程度はあるがおおむね次のとおりである。

I層：暗褐色軟質土 現在の耕作土である。砂質で場所により下部にアカホヤ粒を多く含む部分がある。

- II層：黒色軟質土 軟らかく粘性が少ない。漆黒色のいわゆるクロボク土である。小規模な窪地にのみ存在する。
- III層：暗黄褐色砂質土 軟らかく粘性が少ない砂質土である。アカホヤ風化土層である。場所によっては縄文時代前期から古代、中世の遺物包含層である。
- IV層：黄褐色砂質土 粘性は少ないが硬い。下部に砂や軽石粒を含む。
- V層：黒褐色硬質土 粘性が強く非常に硬い。光沢のある砂粒を少量含む。下部が縄文時代早期の遺物包含層である。
- VI層：暗褐色硬質土 粘性に富み硬い。下部にいくにしたがってやや軟らかくなる。縄文時代早期の遺物包含層である。
- VII層：褐色硬質土 粘性が強く硬い土の中に2mm程度の軽石粒を含む。この土がブロック状になっており隙間には粘性の少ない暗褐色軟質土が入っている。軽石粒は約15,000年前に降下した小林軽石と思われる。旧石器時代の遺物包含層である。
- VIII層：暗褐色軟質土 やや粘性を帯びており、軟らかい。
- IX層：褐色軟質土 やや粘性を帯びており軟らかい。下部にいくにしたがって砂質が強くなる。IX層とX層の漸移層である。
- X層：白褐色砂質土 いわゆるシラス層である。上部は風化しており褐色を帯びている。下部は白色の強いシラス層を成す。

今回の確認調査でT5・T19で遺物又は焼け石が確認された。T17ではV層から、T19ではIV層から掘込みが確認された。

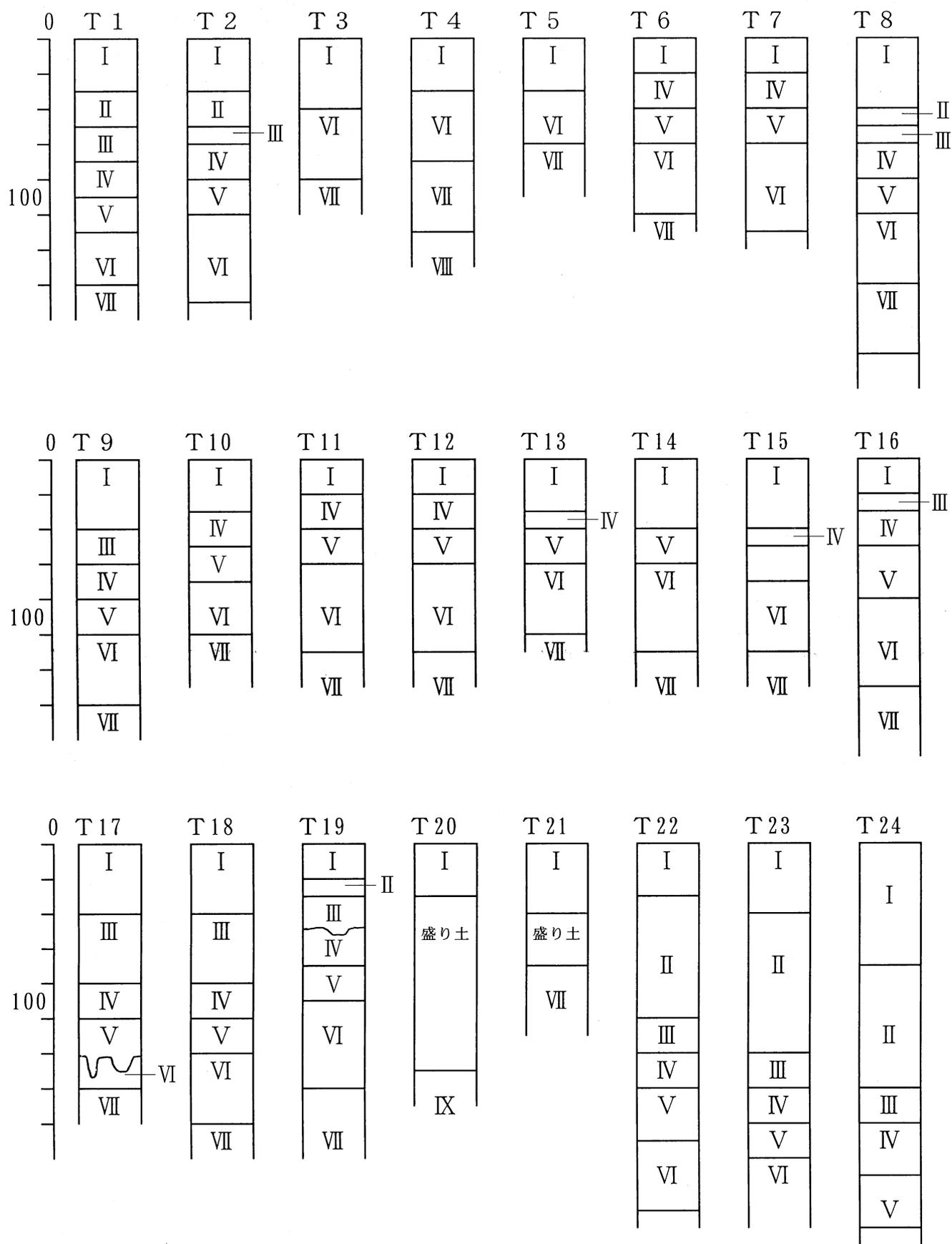
このことから、T17付近には縄文時代早期の遺跡が、T19付近には中世の遺跡が所在すると考えられる。



第1図 船引地区位置図



第2図 船引地区遺跡・トレンチ配置図



第3図 船引地区遺跡土層柱状図

第2節 高城町・細井地区遺跡（山城第1遺跡）

細井地区遺跡は、北諸県郡高城町大字有水に所在し、県営農地保全整備事業細井地区の事業地内に分布する周知の埋蔵文化財包蔵地および推定地を総称している。同事業の実施に伴い、平成4年度から7年度にかけて上原第1・第2・第3遺跡、山城第1遺跡（一部）が発掘調査されている。

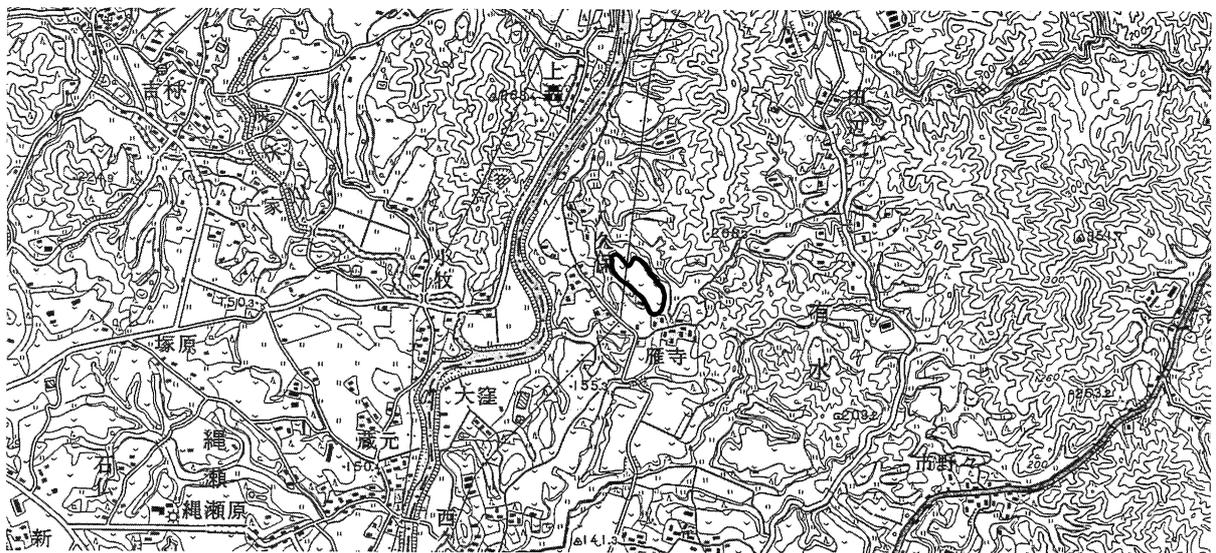
平成11・12年度には山城第1遺跡がほ場整備事業の対象となり、平成11年7月12日～14日で試掘調査を実施した。

調査は、11カ所に約2m四方のグリッドを設定し、重機を使用して行った。調査地付近は、T10のやや東側を頂点（標高約158m）に北西および南に下る緩斜面である。一部でゴボウの栽培に伴うトレンチア痕が見られたものの、全てのトレンチで霧島高原スコリアと御池ボラが確認され、良好な土層堆積状況であった。

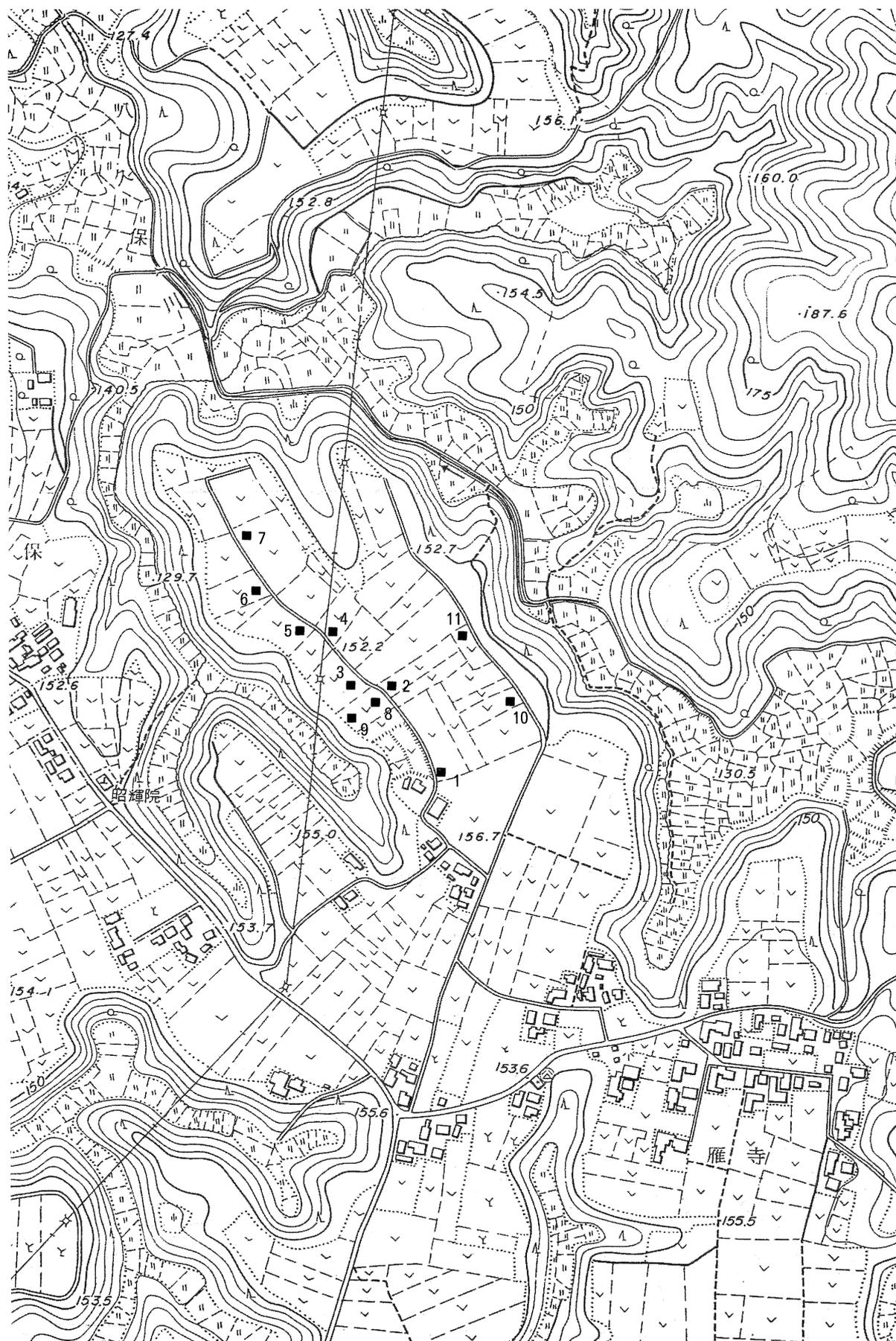
基本層序は以下のとおりで、第Ⅲ層黒色土の下半部から第Ⅳ層褐色土が遺物包含層である。遺構検出は第Ⅴ層御池ボラ上面で行った。

- | | | |
|-------|---------------|--------------------|
| I層 | 表土（耕作土） | 20～40cm |
| II層 | 暗褐色土 | 霧島高原スコリアを含む。5～10cm |
| III層 | 黒色土 | 10～20cm |
| IV層 | 褐色土 | 10～20cm |
| V層 | 明褐色軽石層（御池ボラ） | 30～50cm |
| VI層 | 黒褐色土 | 20～30cm |
| VII層 | 暗褐色土 | 10～20cm |
| VIII層 | 明褐色火山灰層（アカホヤ） | 30～40cm |
| IX層 | 黒褐色土 | 20～30cm |

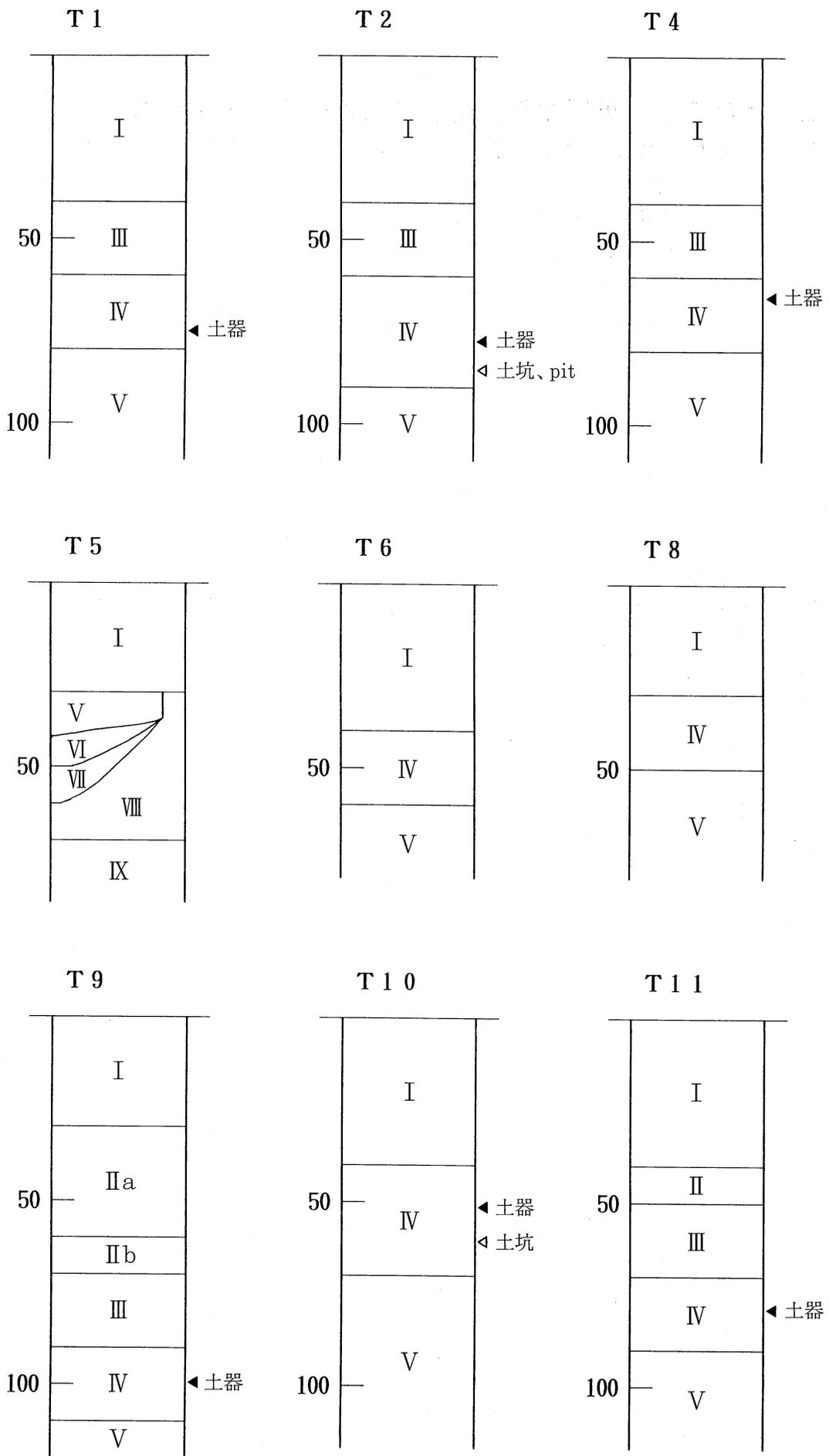
調査の結果、T1・T2・T4・T6・T10・T11から土器（縄文、弥生、古墳）や石器が出土し、土坑やピット等の遺構が検出された。遺構・遺物の分布に多少の疎密はあるものの、遺物包含層である第Ⅳ層の堆積状況から、遺跡は台地上のほぼ全面に広がるものと推定された。



第4図 細井地区遺跡位置図（1：50,000）



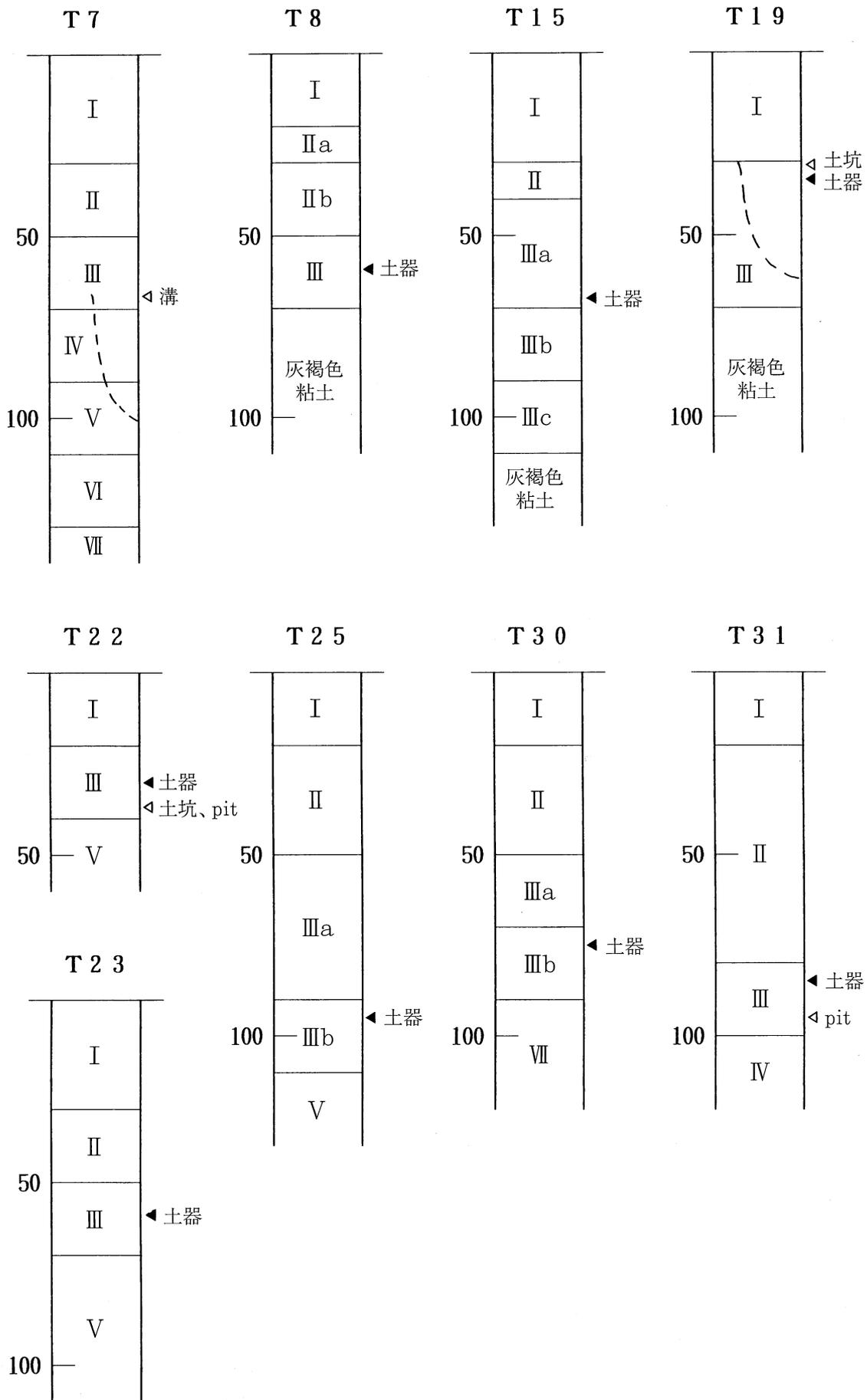
第5図 細井地区遺跡・トレンチ配置図 (1:5,000)



第6図 細井地区遺跡・トレンチ土層断面柱状図



第8図 東川北地区遺跡・トレンチ配置図 (1 : 5,000)



第9図 東川北地区遺跡・トレンチ土断面柱状図

第4節 都城市・横市地区遺跡

横市地区遺跡は、県営ほ場整備事業「横市地区」の事業区約100haに分布する遺跡の総称である。これまでに、鶴喰遺跡（中世の館跡と水田跡、古墳時代の集落跡）、肱穴遺跡（中世の水田跡、縄文時代～弥生時代の住居跡）が都城市教育委員会により発掘調査されている。平成11年度には今房遺跡と馬渡遺跡が調査され、弥生時代から中世にかけての住居跡等が検出されている。

ほ場整備事業に伴う発掘調査は対象面積が多くなる場合が多く、事業との調整に苦慮しているが、特に横市地区では、遺跡分布の密度の高さに加え、広域農道や高規格道路の建設、河川や既存道路（県道、市道）の改修など、他事業との関連により施工地区と時期が限定されるという制約を持つ。このことから、極力早い時期に遺跡の状況を把握し、数カ年分の事業予定を見据えた中期的な事業調整・調査計画が必要となる。

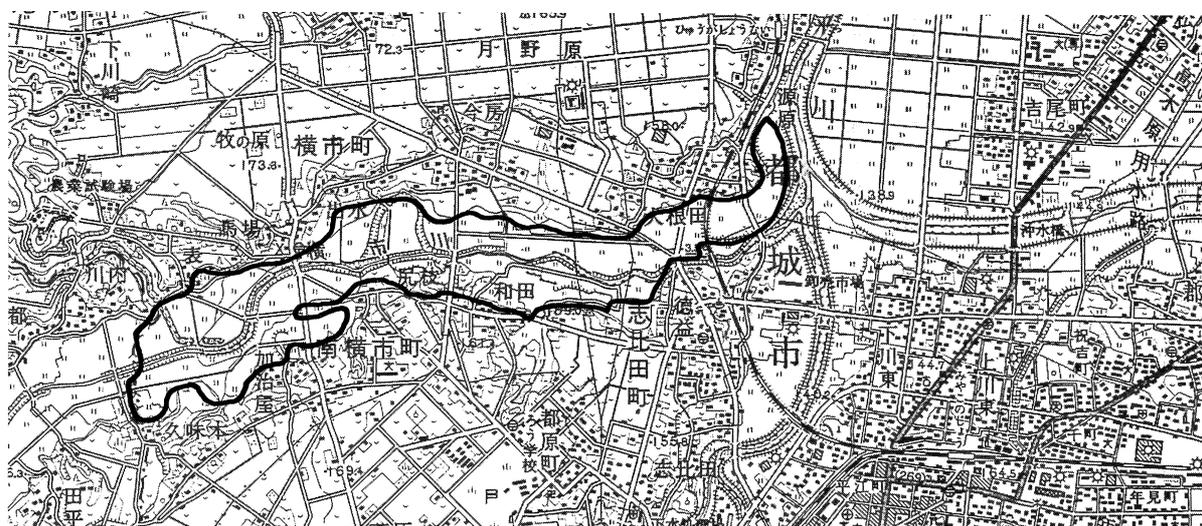
今年度の試掘調査は、横市川右岸の馬渡地区から加治屋地区にかけての約10万㎡を対象に、平成11年11月4日～平成11年12月7日の間の8日間で実施した。約4㎡のトレンチを71ヶ所に設定し、掘り下げ・埋め戻しには重機を使用した。土層は、低位部など水の影響を受けている部分では砂礫の堆積が見られたが、基本的には次のとおりである。

I層	表土（耕作土）	20～30cm
II層	黒灰～黒褐色土	20～30cm
III層	暗灰色軽石層（文明ボラ）	10～15cm
IV層	黒色土	10～20cm
V層	黒褐色土 御池ボラ混入	20～40cm
VI層	明褐色軽石層（御池ボラ）	30～40cm
VII層	黒色土	10～20cm
VIII層	黄褐色火山灰（アカホヤ）	30～40cm
IX層	黒褐色土	10～20cm

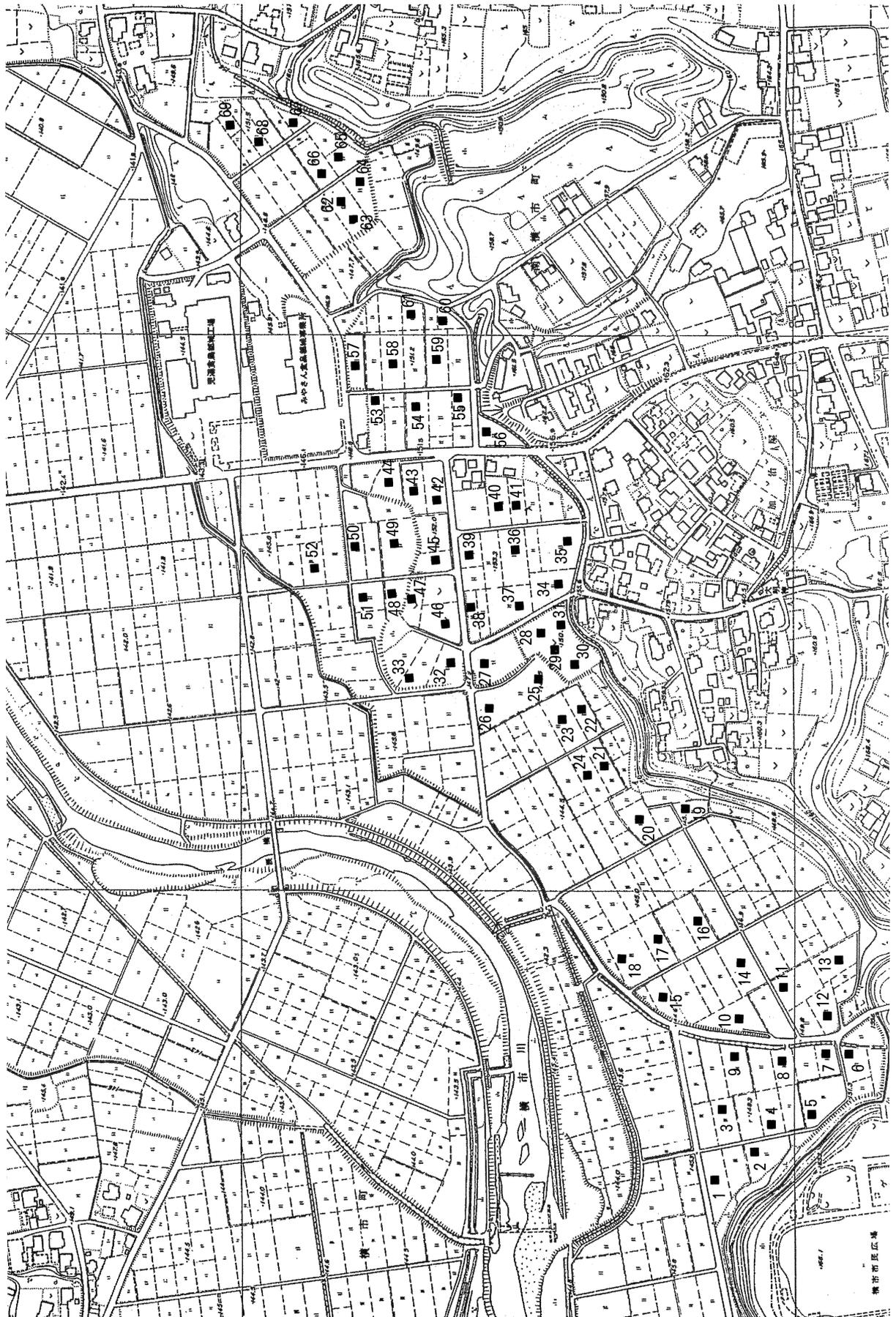
T2～T8、T19～T22、T48～T51は丘陵裾で微高地で、御池ボラの堆積が見られた。ピット等の遺構が確認され弥生時代から中世にかけての遺物が出土した。

T10、T14～T18においては、文明の白ボラ直下とさらにその下層に水田層が確認された。

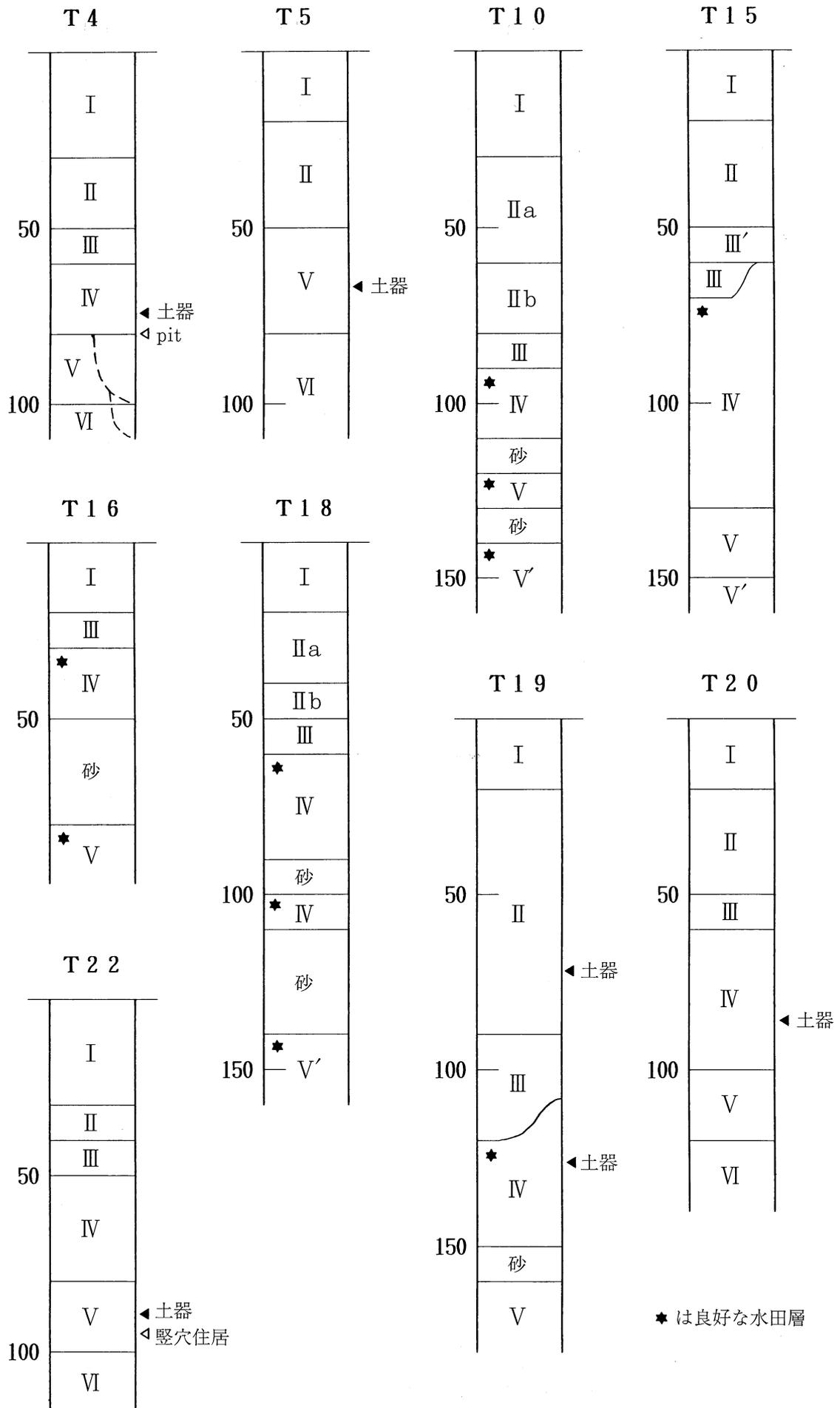
T34～T47、T62～T69は段丘上面の高位部で、ほとんど全てのトレンチから遺物（弥生時代～中世）が出土し、竪穴住居跡、土坑、ピット等が検出された。



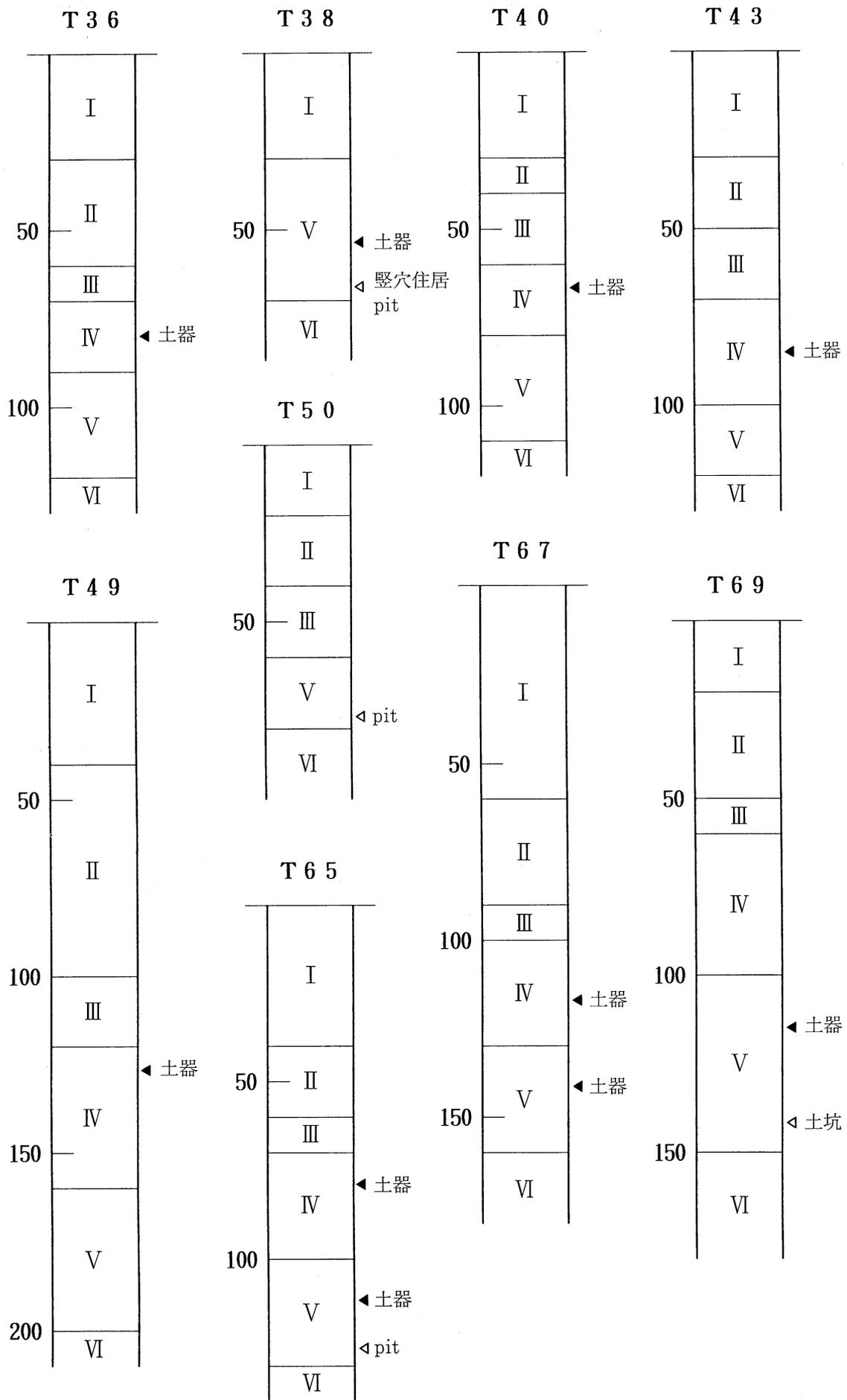
第10図 横市地区遺跡位置図（1：50,000）



第11図 横浜市地区遺跡・トレンチ配置図 (1:5,000)



第12図 横市地区遺跡・トレンチ土層断面柱状図(1)



第13図 横市地区遺跡・トレンチ土層断面柱状図(2)

第5節 都城市・今町地区遺跡

今町地区遺跡は、緑資源公団が実施する農用地総合整備事業「都城区域」のうち今町団地ほ場整備の区域内に所在する遺跡の総称である。南北に細長い今町地区は、地形上3つの遺跡（大岩田上村遺跡、宮尾・立野遺跡、諏訪免遺跡）に区分される。平成7年度には県文化課が試掘調査を実施し、それぞれの遺跡の存在を確認している。

今年度の試掘調査は、事業計画の具体化に伴い、事業地区の拡大された部分と7年度に確認された遺跡範囲の絞り込みを目的として実施した。

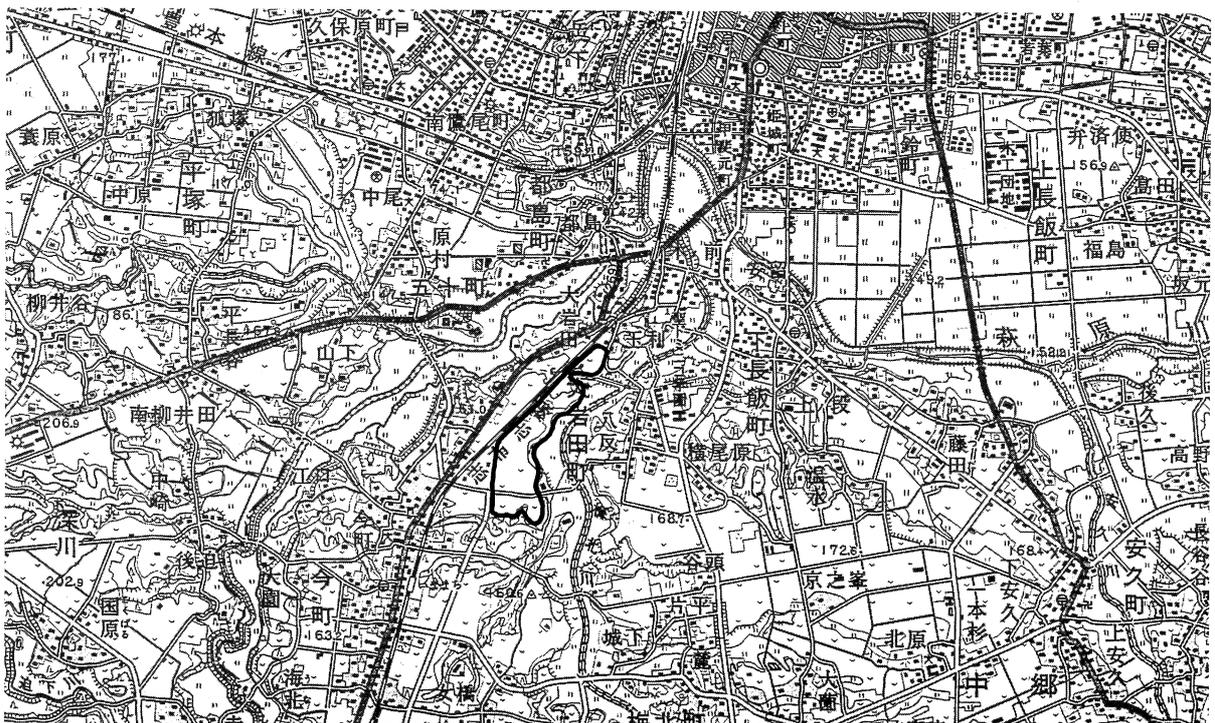
調査は、2×2mのトレンチを43ヶ所設定し、平成11年9月6日～8日、9月29日～30日の5日間で実施した。

調査により確認された今町地区遺跡の基本土層は概ね以下のとおりである。

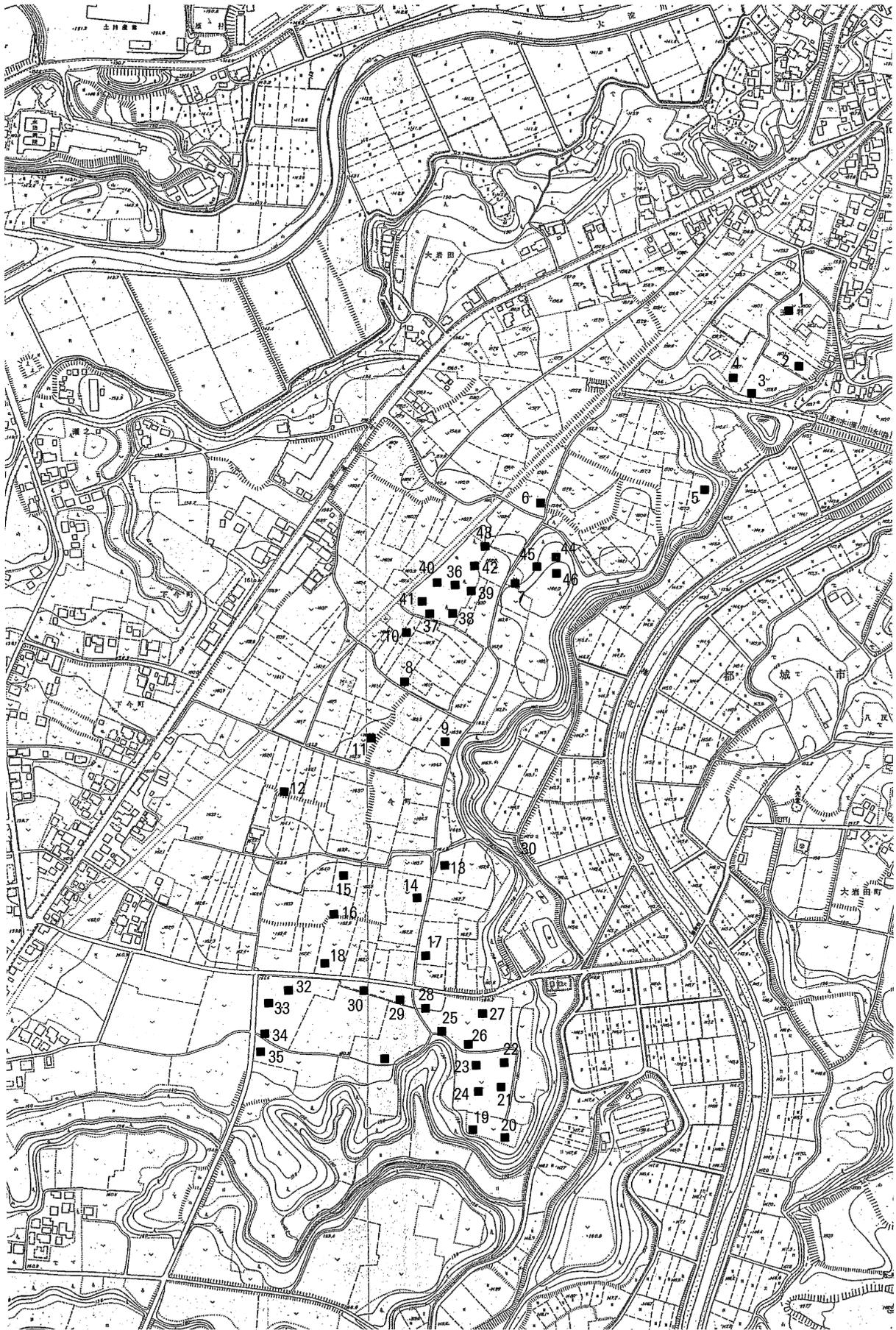
- | | | |
|------|--------------|---------|
| I層 | 表土（耕作土） | 20～30cm |
| II層 | 桜島文明軽石層（白ボラ） | 10～30cm |
| III層 | 黒色土 | 30～40cm |
| IV層 | 黒褐色土 御池ボラを含む | 20～30cm |
| V層 | 明褐色軽石層（御池ボラ） | 30～40cm |
| VI層 | 黒褐色土 | |

調査の結果、T21、T23、T24でピット群（柱穴）、溝状遺構、竪穴住居跡が検出され、遺物として弥生時代後期前半頃の土器が出土した。いずれも比較的深い位置（地表下60cm前後）での検出であり、造成計画との調整が必要である。

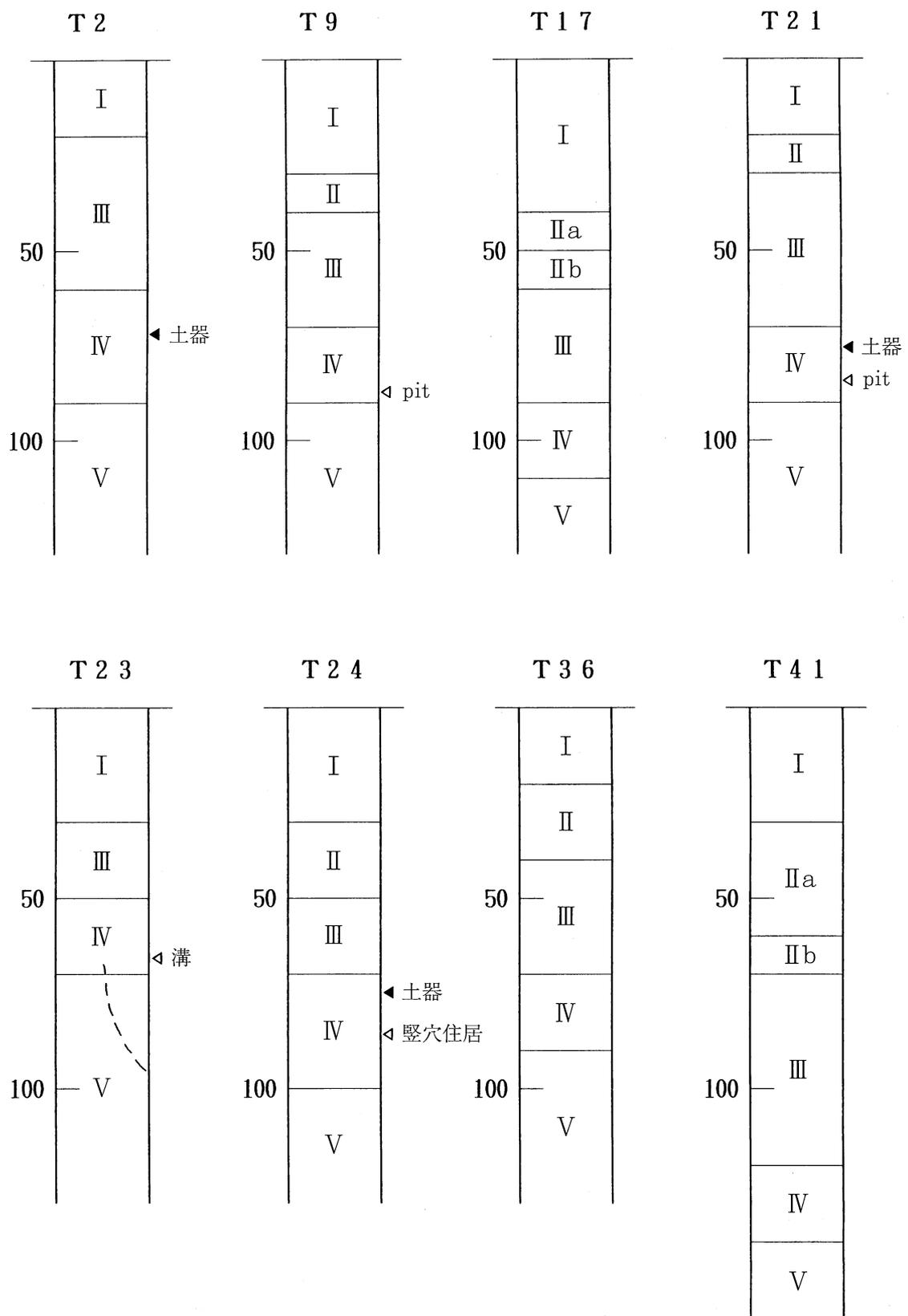
その他のトレンチからは、若干の遺物の出土は見られたものの、明確な遺構は検出されなかった。平成7年度試掘調査の結果や造成計画と照らし検討が必要である。



第14図 今町地区遺跡位置図（1：50,000）



第15図 今町地区遺跡・トレンチ配置図 (1 : 7,500)



第16図 今町地区遺跡・トレンチ土層断面柱状図

表1 平成11年度 試掘調査・確認調査一覧

事業地区名	遺跡名	所在地	調査期間	調査担当	備考
1 下水流地区	志和地村古墳	都城市下水流町	7/5, 6	東 憲 章	農地保全 古墳周溝検出
2 細井地区	山城第1	高城町大字有水	7/12~14	東 憲 章	ほ場整備 古墳時代土師器
3 船引地区		清武町大字船引	8/20, 23, 25~28	重 山 郁 子	ほ場整備 集石遺構 縄文土器
4 二反野地区		綾町大字二反野	9/6	重 山 郁 子	国営農業水利 遺構・遺物なし
5 七野地区		田野町大字七野	9/8	重 山 郁 子	国営農業水利 遺構・遺物なし
6 今町地区	大岩田上村、宮尾立野、 諏訪免	都城市大岩田町、今町	9/6~9, 29, 30	東 憲 章	ほ場整備 弥生時代~中世
7 漆野原地区		野尻町大字紙屋	10/28, 29	東 憲 章	国営農業水利 遺構・遺物なし
8 横市地区		都城市南横市町	11/4, 8, 9, 15, 16, 30, 12/1, 7	東 憲 章	ほ場整備 弥生時代~中世 水田、集落
9 東川北地区	内牧、古屋敷	えびの市大字東川北	12/2, 3, 14~16	東 憲 章	ほ場整備 古墳時代~中世
10 下三財古墳群		西都市大字下三財	1/11	重 山 郁 子	一般農道 古墳の周溝確認
11 飯田地区		高岡町大字飯田	1/20	重 山 郁 子	ほ場整備 遺構・遺物なし
12 鹿村野地区		田野町鹿村野	1/20, 21, 24	重 山 郁 子	ほ場整備 集石遺構
13 元野地区		田野町元野	2/21, 22, 25, 28, 3/1	重 山 郁 子	ほ場整備 縄文土器

**平成11年度農業基盤整備事業
に伴う発掘調査概要報告書**

平成12年 3 月31日

編集：宮崎県文化課 宮崎市橋通東1-9-10
0985(26)7251

発行：宮崎県教育委員会

印刷：(有)印刷センタークロダ
宮崎市大橋 2 丁目175番地
0985(24)4351